

# 令和5年度研究プロジェクト研究概要報告

|  |   |           |
|--|---|-----------|
| 研究種別   | ■自主研究 13  | 公益目的事業 17 |
| 主査名  | 中村文彦 (公社)日本交通計画協会技監                             |           |
| 研究テーマ  | アジア地域のスマートモビリティに関連するプロジェクト事例の動向分析とわが国への示唆に関する研究 |           |
| <b>研究の目的：</b> <p>本研究では、アジア地域での MaaS や CASE に関連する新技術等いわゆるスマートモビリティ（ここでは高度な情報通信技術を援用した移動サービスおよびシステムの総称とする）の開発動向、データ基盤構築やデータ取引市場概念の導入も含めたデータ利活用にかかる検討状況および社会実装動向について、過去2年間の調査結果を活用し、さらに中国、シンガポール、タイ、ベトナム等での情報収集を深度化し、それらをもとに、日本の今後の道路交通政策のあり方を明らかにすることを目的とした。本年度では、モビリティ分野に絞って、特に技術水準が高まっているいくつかの国や地域での先進的な試みについて、新しい動きを正確に把握し、それらの動きの背景や今後の課題について十分に調査を行い、わが国への示唆を得ること、また、日本がそれぞれの国や地域での都市政策および道路交通政策の推進に際してどのような支援ができるかを明らかにすることをめざした。</p>  |   |           |
| <b>研究の経過（4月～3月）：</b> <p>本研究は、オンラインで5回（2023年8月7日、2023年11月13日、2024年1月9日、2024年2月26日、2024年3月27日）開催した。昨年度プロジェクト報告会での報告、今年度の研究会の進め方の共有、スマートシティをキーワードとする過去5年の英語論文のレビューリストの報告、アジア開発銀行による「Reimagining the future transport across Asia and the Pacific 2022」の紹介、中国におけるスマートモビリティの諸事情、アジア都市のライドシェアの現況、韓国のスマートシティ動向と釜山エコデルタシティの現況、第12回アジアスマートシティ会議参加報告、ベトナムの Vinhomes Grand Park Smart City の紹介、最近の ITDP の活動紹介、インドネシアのジャカルタ首都圏でのライドヘイリングのインパクト分析等、シンガポール訪問報告、浮遊粒子状物質等大気汚染問題、クリチバ訪問報告、自動運転マイクロモビリティの日本と中国における事例紹介、大気汚染（PM）による健康被害と電気自動車による PM への影響、フィリピンのマニラにおけるジープニーの現状、エクアドルのキトにおける公共交通の現状と課題の紹介、といった議題を共有した。</p> |   |           |
| <b>研究の成果（自己評価含む）：</b> <p>アジア各国等でのスマートモビリティに関連する話題の収集という点では十分な成果をあげたといえる。また、研究会での議論を経て、技術面の課題、制度上の課題、さまざまな交通手段の中での位置づけの整理に関連する政策課題を整理できた他、関連する非営利団体の活動、大気汚染との関係についてある程度の示唆を得たといえる。日本としてどのような取組み支援があるか、という点について十分には議論できていない点を除いて及第点といえる。</p>   |   |           |
| <b>今後の課題：</b> <p>地域での取り組みの変化が速いことを鑑み、今後も各地での動きを継続的に収集する必要がある。また、日本での取り組みに比べて進行している事例からの学び、やや進行が遅滞している事例に対しての日本からの支援貢献についての考察を今後も進めることが望まれる。</p>  |   |           |